

野外観察園サテライト展示 ふるさとの自然を見つめる—東海地方の里山を彩る花々

Exhibition at Botanical Garden Seminar House
“Looking at the nature of my hometown:
Flowers that color the *Satoyama* landscape of the Tokai region”

岩瀬 友秀 (IWASE Tomohide)¹⁾・宇治原 妃美子 (UJIHARA Kimiko)²⁾・
武田 和樹 (TAKEDA Kazuki)³⁾・吉野 奈津子 (YOSHINO Natsuko)⁴⁾

- 1) 名古屋大学農学部
- 2) 名古屋大学博物館
- 3) 名古屋大学経済学部
- 4) 名古屋大学全学技術センター

464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館
Nagoya University Museum, Nagoya University, Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya, 464-8601, Japan

1. はじめに

本稿は、名古屋大学博物館野外観察園セミナーハウス2Fにおいて開催された野外観察園サテライト展示「ふるさとの自然を見つめる—東海地方の里山を彩る花々」の記録(図1)である。名古屋大学生物研究会の岩瀬と武田から、東海地方の里地里山に多く存在する「湧水湿地」の写真展を開催したいと依頼があった。秋に開催されるのでどんぐりコーナーも設けることとし、野外観察園に生える植物などについても併せて市民に周知できるものと考え、本展示を開催することとした。



図1 野外観察園サテライト展示「ふるさとの自然を見つめる—東海地方の里山を彩る花々」のようす。

2. 展示開催の概要

会期：2024年10月1日（火）～2024年12月27日（金）

会場：名古屋大学博物館野外観察園セミナーハウス2F

主催：名古屋大学博物館

協力者：名古屋大学生物研究会、富田啓介

3. 展示物

本展では、名古屋大学生物研究会の岩瀬と武田が東海地方の里地里山に多く存在する「湧水湿地」で撮影した植物写真や、いきもの写真と動画、植物標本を展示した。他には「どんぐりコーナー」を設け、日本で見られる23種のどんぐりおよび、台湾産などのどんぐりの実物標本と、どんぐりが樹上で結実した写真を展示した。野外観察園担当の吉野と博物館展示担当の宇治原が、展示室内のレイアウト、および展示用の写真タペストリー等のデザインを行なった。以下、展示したパネルを紹介する。なお、パネルの掲載文章は、本論と区別できるよう、字下げして表記する。

チラシ、東海地方の里山・湿地マップ

チラシの表面には東海地方湧水湿地に生えるミカワシオガマ、シデコブシなどの画像を使用した。チラシ裏面には、本展示用に製作した「東海地方の里山・湿地マップ」を掲載した（図2）。またマップは、湧水湿地研究会（2019）に掲載の図をもとに作成し、展示室内にW900、H800のサイズに印刷し掲示した。これには、湿地の観察におすすめの地域が記されている。

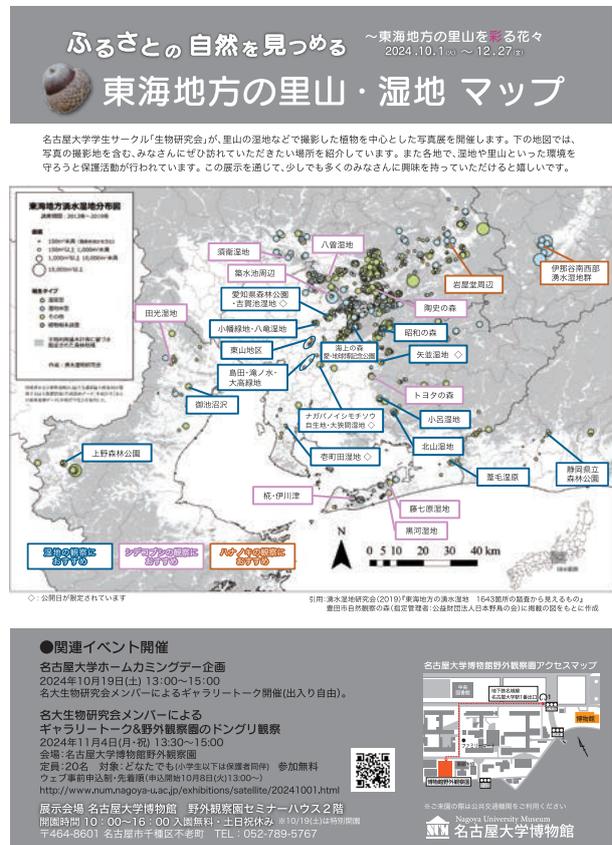


図2 チラシの表面、裏面。

ごあいさつ

このたびは「ふるさとの自然を見つめる 東海地方の里山を彩る花々」展にお越しいただき、誠にありがとうございます。

里山は、私たちの生活と深く結びついており、その四季折々の風景は、心に安らぎと感動を与えてくれます。中でも、湧水湿地と呼ばれる環境が東海地方には多く点在し、そこには、湿地に特有な固有種や絶滅危惧種を含め、多様な生きものが息づいています。

この展示では、私たちのふるさとである東海地方の豊かな自然と、その中で咲き誇る美しい花々を中心に紹介します。

湧水湿地は身近にあるにも関わらず認知度は高くなく、また遷移の進行や都市開発に伴って失われてしまうことも少なくありません。近年になって湧水湿地の重要性は再認識され、ラムサール条約や環境省の重要湿地として登録された湧水湿地がいくつかありますが、依然として知らない方は多いのではないのでしょうか。

この展示を通じて、湧水湿地の生物多様性を知っていただくとともに、自然環境の大切さや保護の重要性についても考える機会となればと考えています。私たちのふるさとの自然を守り、次世代に引き継いでいくため、多くの方々に、少し足を止めていただき、里山に訪れた気分を味わっていただければ幸いです。

東海丘陵要素とは解説パネル

東海地方の丘陵や台地は、水はけのよい砂礫層と、水をほとんど通さない層からできています。2つの層の境界が地表に現われると、砂礫層から、地中に深くしみこまない水が、湧き水として出てきます。この湧き水が浅く広がり、地表を流れ下ることによって、有機物に乏しい湧水湿地ができます。

そんな湧水湿地には、他の植物によって占有されずに、さまざまな環境の変化をくぐり抜けて生き残った植物が存在します。これらの植物は「東海丘陵要素」と呼ばれています。

しかし、環境の変化や都市開発などにより、湧水湿地は減少傾向にあるため、植物をはじめとする生きものや環境の保全が課題となっています。

東海丘陵要素紹介写真タペストリー

東海丘陵要素紹介の写真を掲載した写真タペストリーは、1：Autumn to Winter, 2：Spring, 3：Summerと季節ごとにコーナー分けをした。秋から冬にかけての展示であったため、入り口正面には1：Autumn to Winterを掲示した。

1：Autumn to Winter

写真タペストリー（W610, H1900）4枚で作成（図3）。以下、Autumn to Winterの写真タペストリーに記載したキャプション。東海丘陵要素植物には植物名の前に●を記した。

<●ウンヌケ 愛知県森林公園 2023.9.30 >

<ウメバチソウ 小呂湿地 2023.11.4 >

<ホオジロ >

<●ナガボナツハゼ 浜松市三幸町 2023.9.26 >

<●ミカワシオガマ 矢並湿地 2023.10.5 >



図3 Autumn to Winter 写真タペストリー。

< ●ヘビノボラズ 矢並湿地 2023.10.5 >

< サワギキョウ 吉賀池湿地 2023.9.30 >

< サワヒヨドリ 吉賀池湿地 2023.9.30 >

< 葦毛湿原 2023.11.19 >

< ●シラタマホシクサ, ミカワシオガマ 矢並湿地 2023.10.5 >

シラタマホシクサが東海地方のオリジナルであり、シンボルです。群生する姿は天の川のようにすね。

2 : Spring

写真タペストリー右側 (W610, H1900) 4枚と (図4), 左側 (W610, H17500) 2枚と (W610, H1900) 1枚 (図5) で作成。以下, Spring の写真タペストリーに記載したキャプション。

「春の訪れ」といえば、桜をイメージする方も多いでしょう。ソメイヨシノが咲く時期に、実は、里山では様々な花が盛りの時期を迎えています。これらの花々の多くは、日本、ひいては世界の中で東海地方でしか見ることができません。ぜひ「ふるさと」の自然を探しに出かけてみませんか。

< ●シデコブシ 椈湿地 2023.3.19 >

< ●シデコブシ 藤七原湿地 2023.3.19 >

< ●シデコブシ 藤七原湿地 2023.3.19 >

< ●シデコブシ 椈湿地 2023.3.19 >

シデコブシは、ピンクから白のさまざまな濃淡ある色の花を咲かせます。江戸時代から珍重され、園芸品種としても知られていますが、意外にも東海地方にしか自生していない固有種です。

花は、手のひらサイズの大きさに、咲き始めの頃は特に美しく、柔らかい印象を与えます。

<コバノミツバツツジ、ギフチョウ 愛・地球博記念公園2024.4.10>

<●マメナシ 小幡緑地2023.4.1>

ソメイヨシノと同時期に咲きますが、花の色が「真っ白」です。やくが黒いのも特徴です。

<ハルリンドウ 八竜湿地2024.4.7>

<●ヘビノボラズ 御池沼沢2023.4.16>

<●ヘビノボラズ 御池沼沢2023.4.16>

<●ハナノキ 坂本2023.4.19>

ハナノキは、一般的に秋に葉が赤く染まるカエデの一種ですが、他の種類と異なり、春にもその魅力を発揮します。開花期と落葉期にそれぞれ、花・葉が鮮やかに赤く染まり、遠くからでもその存在感を感じさせます。この鮮やかな赤色は、季節の移り変わりを告げるシンボルでもあります。

<●フモトミズナラ 愛・地球博記念公園2024.4.10>

<●ミカワバイケイソウ 葦毛湿原2023.5.3>

類似種は、高地・高原まで行かないと見ることはできませんが、ミカワバイケイソウは、手軽に見ることができます。※咲き年と裏年があります。

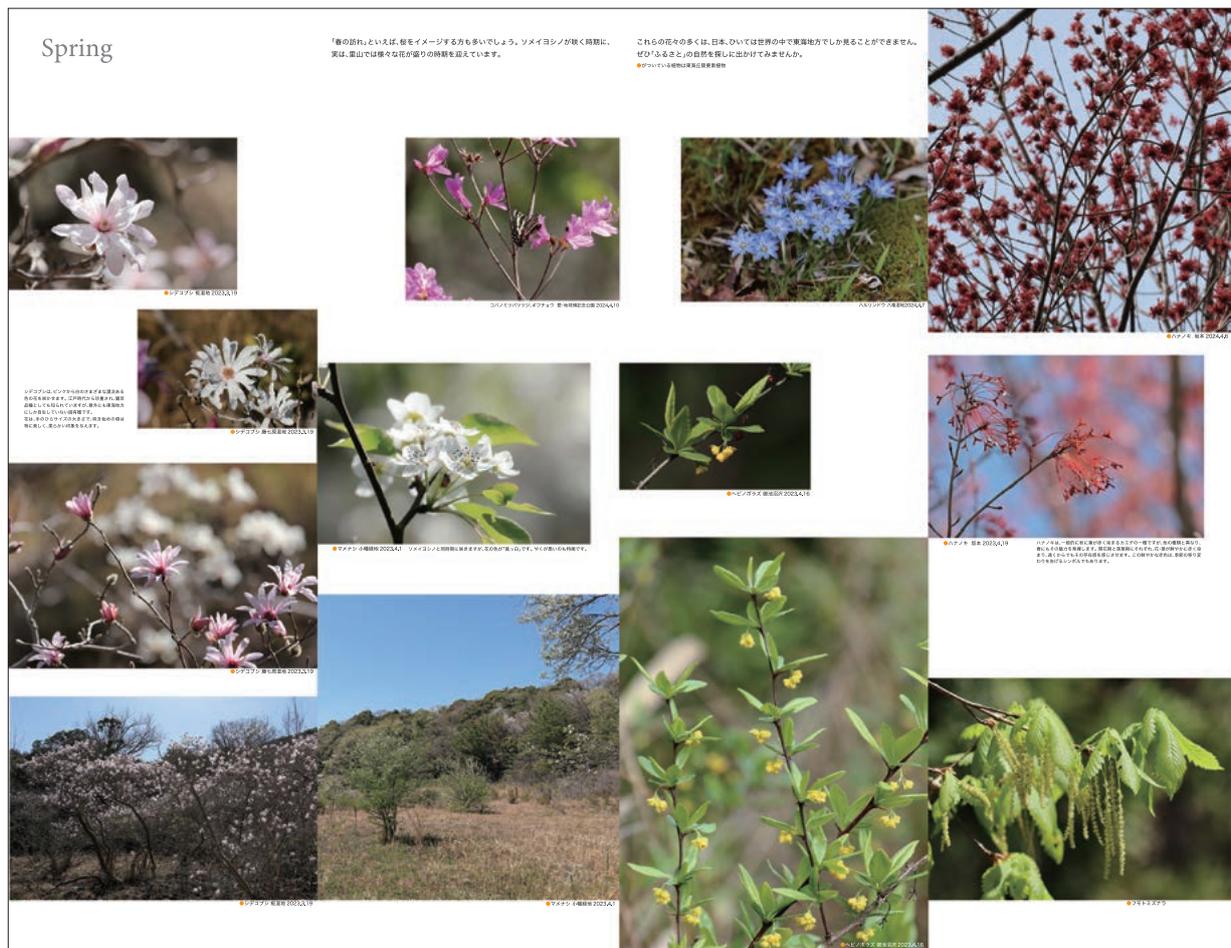


図4 Spring 右側の写真タペストリー.



図5 Spring左側の写真タペストリー。

<●ミカワバイケイツウ 葦毛湿原 2023.5.3 >

<●ヒトツバタゴ 犬山市 2023.5.8 >

ヒトツバタゴは、雪をかぶったような姿をしています。「ナンジャモンジャ」とも呼ばれています。群生地は無く、各地域で、シンボルツリーになっています。※名古屋大学博物館野外観察園にもあります。

<●ナガボナツハゼ 湖西市 2024.5.18 >

低山の尾根筋や痩せた草地に生育しており、スズランのような花を多数つけます。ブルーベリーの仲間です。ナツハゼとの雑種が多く、純系は少ないです。

<●ナガボナツハゼ 田原市 2023.5.2 >

<●ナガボナツハゼ 豊橋市 2023.5.4 >

<●ナガボナツハゼ 浜松市三幸町 2023.5.3 >

3 : Summer

写真タペストリー (W610, H1900) 4枚で作成 (図6)。以下, 写真タペストリーに記載したキャプションと, 写真を掲示した植物名である。またモニターを設置し, 動画「夏の湧水湿地に行ってみた (2:49)」を上映した。その他, ナガツボハゼ, シラタマホシクサの植物標本を展示した (図7)。

夏の湿地は木陰がなくて, めちゃくちゃ暑いです。お出かけの際は, 暑さ対策をお忘れなく!!

一見, 湿地を見回すと, 花が見えないかもしれませんが, よーく目をこらすと見つかります。ちまたに花が少ない時期でも, 湿地に行けば, 何かしらの花に出会うことができるのが魅力です。昆虫との出会いもあるかもね!

- < ●クロミノニシゴリ 葦毛湿原 2024.5.18 >
- < ●クロミノニシゴリ 葦毛湿原 2024.5.18 >
- < ●モウセンゴケ 葦毛湿原 2023.6.24 >
- < ●トウカイコモウセンゴケ 葦毛湿原 2024.6.22 >
- 晴天の午前中に開花し, 正午ごろには閉じ始める。
- < ●トウカイコモウセンゴケ 八竜湿地 2024.6.12 >
- < ●小呂湿地 2024.8.3 >
- < ●ナガバナイシモチソウ 壱町田湿地 2023.7.23 >



図6 Summerの写真タペストリー。



図7 植物標本 ナガツボハゼ, シラタマホシクサ.

- <●ナガバノイシモチソウ 豊橋市2022.8.7>
- ネバネバしている. 赤花と白花があり, 赤花のほうが一回り大きい.
- <カキラン 葦毛湿原2024.6.22>
- <サギソウ, ●ナガバノイシモチソウ 豊明市2023.7.29>
- <ノハナショウブ 葦毛湿原2024.6.22>
- <トキソウ 葦毛湿原>
- <ヒメタイコウチ 小呂湿地2023.10.7>
- <ハッチョウトンボ(オス) 大狭間湿地2023.7.30>
- <ハッチョウトンボ(メス) 大狭間湿地2023.7.30>
- <ミミカキグサ(黄), ●ヒメミミカキグサ(桃) 葦毛湿原2023.8.16>
- <ホザキノミミカキグサ 大狭間湿地2023.7.30>
- <ムラサキミミカキグサ 葦毛湿原2023.8.13>
- <●ヒメミミカキグサ 葦毛湿原2023.8.13>

どんぐりコレクションコーナー

どんぐり実物標本は, 日本で見られる23種と台湾などの外国産を展示した(図8). どんぐりコレクションコーナーの展示紹介パネルではどんぐりの部位をわかりやすく紹介するために部位の説明を記した(図9). どんぐりが樹上で結実した様々な種類の画像をA3のサイズ用紙に印刷し, 8点掲示した(図10). 植物名とキャプションは以下である.

- ・アベマキ 関西の雑木林の代表的な樹木. どんぐりは大粒で丸く, コマを作るのに最適.
- ・フモトミズナラ 北関東から東海地方にかけて分布する珍しい樹木. ベレー帽のような殻斗が可愛らしい.
- ・ナラガシワ 西日本に多い. どんぐりの形は個体差が大きく, 長さ4cmを超える大粒のどんぐりもある.

- ・ツクバネガシ 神社の鎮守の森などでたまに見かける。どんぐりはアカガシと瓜二つ。毛がフサフサの殻斗。
- ・ツブラジイ 山地の照葉樹林に多い。黒く小さなどんぐりは、拾い集めるのが大変。
- ・マテバシイ 公園で見かけることが多い。どんぐりの果皮が分厚く硬いため、虫はほとんど出てこない。
- ・クリ 野生のクリは、市販のクリよりもかなり小粒。
- ・イヌブナ 長い柄の先に2個の果実がハの字に着く様子が可愛らしい。数年に一度しか実を着けない。



図8 どんぐり実物標本.



図9 どんぐりコレクションパネル.



図10 どんぐりが樹上で結実した写真.



図11 ハガキサイズのツブラシイピラミッド写真（表面）とどんぐりマップ（裏面）。

他には、ツブラジイを「ピラミッド型」に積み上げて撮影した写真と、野外観察園のどんぐりマップを作成し、表裏印刷したハガキを設置した（図11）。マップを手にとってもらい、野外観察園内を散策してもらえらるようになった。なお野外観察園内に生えているどんぐりのできる樹木には、それぞれの樹木に該当するどんぐりの写真が入った「樹木札」を設置した。

4. 関連イベント

10月19日（土）開催された、名古屋大学ホームカミングデーには、生物研究会メンバーによる展示解説を開催した。

他、「ギャラリートーク&野外観察園のどんぐり観察」を11月4日（月・祝）13:30～15:00（WEB事前申込制 先着20名）を開催した（図12）。参加対象は、どなたでも（小学生以下は保護者と参加）としたため、小学生以下の子どもなども多数含まれた幅広い年代が参加したイベントとなった。イベント当日は、参加者は最初にセミナーハウス2Fに集合し、生物研究会メンバーによるギャラリートークを行った。その後、野外観察園でのどんぐり観察会を行った。どんぐりや葉などを観たり採取した後、セミナーハウス1Fへ移動し、顕微鏡での観察も行った。



図12 ギャラリートークの様子。

展示期間64日間の来場者は1097名であった。会場のテーブルには感想を書いてもらうノートや、付箋に感想を書いてもらって貼ってもらう「ご感想ボード」を設置したが、「身近に湧泉湿地があることに驚いた」や「写真がきれいで是非ガイドブックをつくってほしい」などの多くの感想が寄せられた。

引用文献

湧水湿地研究会（2019）東海地方の湧水湿地 1643箇所の踏査から見えるもの。豊田市自然観察の森（指定管理者：公益財団法人日本野鳥の会）。

